

# 2026年6月7日（日）第556回・バイカモ保全、移住と空き家再生、ゲストハウス展開

第556回 ラジオ放送録 地域活性化

## 三島市の魅力と活性化：移住者・山森達也氏の挑戦

NPO法人グラウンドワーク三島 × 株式会社シタテ：外部視点が拓く街の可能性

### 空き家再生による宿泊事業「株式会社シタテ」

第1の拠点：Guesthouse giwa  
元寿司屋「たすけ寿司」をリノベーション。4室9ベッドの交流拠点として、宿泊客と地域コミュニティを繋ぐ。

移住のパラドックス  
当初は「遊びと通勤の拠点」として移住。コロナ禍を機に三島の価値を再発見し、起業を決意。

ANIVERSARY  
**5<sup>th</sup>**  
2026年6月1日 創業5周年

NEXT PROJECT  
**7月オープン**  
POCKET HOSTEL MISHIMA  
桜川沿いの静かな滞在拠点

### 三島の「本質的な価値」と挑戦

水の都の魅力  
街中を流れる美しい水、源兵衛川のホテルなど、地元民が見過しがちな資源を「宝物」と定義。

人口転出超過への対抗  
宿泊を通じて「三島を好きな人」を増やし、街全体へのインパクト創出を目指す。

アヒル図書館 三島未来研究所 コミュニティ接続

### グラウンドワーク三島 活動報告

テレビ放送後の反響 **来訪者 20組**  
NHK「たっぷり静岡」放送後、ボランティア掃除中に多くのファンが来訪。

野生のカモによりバイカモの花の約8割が被害。自然の摂理として受け入れつつも、清掃活動は継続。

30年のボランティア活動 移住者家族の絆

番組へのフィードバック  
ご意見・ご要望をお待ちしております

意見・要望を送る @リスナー

本ラジオ番組では、NPO 法人グラウンドワーク三島の活動報告として、NHK 静岡「たっぷり静岡」の「三島梅花藻の里」の反響を報告しました。

続いて、ゲストの株式会社シタテ代表・山森達也氏を迎え、同氏が京都から三島へ移住し、空き家を再生して、宿泊施設を運営するに至った経緯と、三島の魅力を活かした今後の事業展開について深掘りします。

## オープニング：テレビ放送の反響とバイカモの現状

番組は第 556 回を迎え、今回は木曜日に録音されている。パーソナリティの渡辺豊博さん（ジャンボさん）は、前日に NHK の番組「たっぷり静岡」で「三島梅花藻の里」が放送されたことによる大きな反響を報告。

放送翌日の木曜日、朝 9 時半から 11 時までボランティアでバイカモの掃除をしていたところ、テレビを見たという来訪者が 20 人ほど訪れたという。中には渡辺さんの熱心なファンもあり、サインを貰うために色紙を持参したが、ペンを忘れるという一幕もあった。

渡辺さんは、30年にわたり活動を続けているボランティアの努力があっ  
てこそ、バイカの花が美しく咲くこと、そして人々から話し掛けられる「綺麗  
ですね」という言葉が、その努力の証であると語る。

特に、定年後に埼玉や福岡から三島へ移住してきたボランティアの方が、  
テレビを通じて、初めて、その活動内容を知り、夫を褒めたという心温まる  
エピソードも紹介された。

一方で、喜びの報告に続き、悲しいお知らせとして、今朝9時半に3羽の  
カモがバイカモの花の約8割を食べてしまったことが明かされた。カモや猫  
にとってバイカモは体内の毒素を出す薬草のような役割があり、これは自然  
の摂理であるとしながらも、渡辺さんはユーモアを交えて残念な気持ちを表  
現した。

## ゲスト紹介と移住の経緯：山森達也氏と三島との出会い

今回のゲストは、株式会社シタテの代表である山森達也氏。同社は三島の  
古い家や空き店舗をリノベーションし、飲食店や宿泊施設として再生させる  
事業を手掛けており、2026年6月1日で創業5周年を迎える。

山森氏は京都出身で、6年前に東京から三島へ移住してきた。移住の当初  
の目的は、三島で事業を始めることではなく、趣味である西伊豆での海遊び  
と、当時勤めていた東京の会社への新幹線通勤を両立させるための拠点とし  
て最適な場所だったからだという。当時は、まさか自分が会社を興すとは夢  
にも思っていなかったと振り返る。

しかし、移住翌年にコロナ禍となり、東京へも西伊豆へも行けなくなった  
ことで、三島で過ごす時間が増加。その結果、街中を流れる水の美しさや、  
外部から来た人でも快く受け入れてくれる人々の温かさなど、三島の魅力を  
再発見することになった。

移住当初に困ったことは、東京のマンションのように24時間ゴミ出しがで  
きず、市のルールに戸惑った程度だったと語った。

## 三島での起業：ゲストハウス運営と街の魅力発見

三島の魅力に気づいた山森氏は、人に街の良さを紹介したいという思いか  
ら、副業として宿泊事業を始めることを決意。元々は「たすけ寿司」という  
寿司屋で、12年ほど空き店舗だった建物をリノベーションし、4室9ベッド  
の「Guesthouse giwa」を開業した。

当初は「建物が稼いでくれる」と見積もりが甘かったが、実際には夜9時  
から10時までの一時間のバー営業を含め、自身の時間を大きく使うことにな  
った。しかし、宿泊したゲストが「三島は良い街だ」と喜んでくれたり、案  
内した場所で満足してくれたりに大きなやりがいを見出す。

山森氏が大切にしているのは、単に場所を提供・案内するだけでなく、三島未来研究所のようなコミュニティスペースや、ユニークな私設図書館「アヒル図書館」などを紹介し、「人」と繋げることだという。

特に、街中でホテルが見られることを案内すると、多くのゲストが驚き、喜んでくれると語った。

## 今後の展望：三島の川沿いを拠点とした新たな挑戦

ゲストハウス運営の楽しさから、山森氏は元の会社を退職し事業に専念。宿泊客から「三島を好きになった」という声を聞く一方で、市の人口が転出超過である現状に「まだインパクトを出せていない」と感じ、より多くの人に三島を好きになってもらうため事業拡大を決意した。

現在、2軒目の宿として、白滝公園の桜川沿いにある元割烹の「楽庵」を改装中。この新しい「POCKET HOSTEL MISHIMA」は7月オープン予定で、繁華街にある1軒目とは対照的に、川沿いの景色を楽しみながら静かに滞在したい人向けの宿となる。

さらに、3軒目の構想として、源兵衛川沿いにある「バー湯本」の2階と3階を借り、部屋からホテルが眺められる宿の計画も進めていることを明かした。

山森氏は、今後も三島の川沿いという立地を活かし、素敵な場所に宿を増やし、訪れた人が街を歩いて好きになるきっかけを作り続けたいと意欲を語った。

渡辺さんは、こうした空き家を「宝物」と捉え、新しい価値を創造する山森氏の活動を「理想的だ」と称賛した。

## 外部の視点が拓く三島の可能性

山森氏の今後の戦略として、三島を好きな人を増やし、様々な場所に宿を展開して街を歩いて好きになってもらうきっかけを作りたいという夢が語られた。渡辺氏は、山森氏のような挑戦者が増えれば、その波紋が共鳴し、街全体が活性化するとの期待を寄せた。

また、京都出身の山森氏が、三島で事業を展開していることについて、「外部からの視点を持つ人の方が、地元民が見過ごしがちな三島の本質的な価値を認識し、活用できるのではないか」という議論が交わされた。山森氏自身も、自分の地元の良さは案外分らないものだと同意。

三島には「〇〇な街にしたい」という情熱を持つ人が多く、その一人ひとりが夢を実現していくことで、街はさらに面白くなると締めくくられた。